伝論

下

中村俊定文庫
文庫 18
750
3

誹論卷之三

平安　秋月下白露編輯

一　駕籠三つの亀鶴とそ古人の句にあまたなれとかつ[illegible]

世の名誉とせしかの縁年月の事[illegible]遠近奥州の漁猟[illegible]

故赤穂城主浅野少府監長矩之舊臣

大石内蔵之助四十六人同志異体報

亡君之讎今茲二月四日官裁下令一

時伏刃齊屍

万世のさつ[illegible]を[illegible]ひるゝ肺肝をつぬく

[illegible]ける能ハなくとゝ　其角

叡山文庫

ちる紅葉や客舎あるじ　物　應三

新酒のけんくわを尋むまて　沾徳

右之角力相撲

服句の事之遠へと義句のあらんかぎりハ古今の能唱をとり分この事をとるを義句振離をとり離をさしを俳諧と対し合の新酒の雪嶺ハ寸きとりの事くさる新のよるきハ呂会のとくこと声ハ俗ち きとりとをもとりとり川猪を鳴て陽に陰酒よりは紙をれハ 義情ふくるとをとりのとうなるけ〳〵紀大きる新あくいとる花 のけんくをもをもむまくくて酒をとをとをきる中七ふる

新内あく　ハもとをあくく新酒の雪嶺ハかすむとをるきとりをとるの 遠振を時ハ〳〵八方世を弥をと風〳〵ふをるきて ををきをを〳〵

句の付之ふ語を能ふ後世之この義論〳〵〳〵

一和歌連歌ふ年月の栄切修練如能の上ハ業方化配ふ心を付べきをく

百ふのをちの新ふ　武る内記主

ふをのをあ世をを新をのをもふ能をきて

いふをきを新とをみよ〳〵世ふのや俳

一又ふ新く対　仁和寺宗山

法親王ふ名句をあ〳〵て

俱舎寺経改

くさ井のかけひのおとハかハるとも
なほとゝまれる夜の内こそ　　大磯庵

曽我十郎祐成ゝ井の鏡の
影を見ぬ袖ゝ　　清京法橋

をゝれゝ来よ秋風をふくゝ
月清集を終よ

村〳〵くさ〳〵ハちゝ〳〵ゝ秋ゝ
あゝしゝいつる夕夜の月

佛法ゆゑゝゝハ夢の結ひ

清ゝ書附侍る　　妓王

をゝいつゝも月ゝ堅辺の草
いつゝゝゝ秋よあハゝ芝川亀ゝ

上醍醐に寂静谷に　　心敬僧都

ゝゝゝの ゝゝゝの源ゝ
中秋十五夜清光　　宇治法師

一年の月をくゝゝ今宵ゝ
秋夜　　十万堂

初夜ゝゝゝゝゝゝ秋ゝゝ

[illegible]日長ゝの吟ゝ今の詠唱ゝゝゝゝゝ初夜ゝ

別紙顛倒しく句ども多くしらいへる是的論くなる
まことちかきものに今少し跡おくへき拙るしるこの時代の俳句をかく
ハ俗しくとあるべしと

軒鶯　窓鶯　薗鶯　枝鶯　谷鶯

けふの歌ゆくしく堂の句を成を　曜々理居士鬼貫

うくとしすハれちかくこそすたてのもそ

清光　狂而堂其角

名月や畳のうへへ松の影

深雪　落柿舎去来

急くといいとやたくくや雪の門

納涼　雪中巻嵐雪

まるものの水あらの法ていこる

加ゝ紙ゝくの使句法無跳法ゝ執ちゝ人ゝ味深ちゝ句ゝ動安

知ゝくゝゝ思ゝゝ古人の句をたゝ形ゝ

古人発句深雪曜雄

花梅や加ゝくゝも祢の妻　神官　守武

多紙法ゝくゝ高ゝ　蛙かな　宗鑑

ゝゝ人の句歩ゝ　秋の月　貞徳

法ゝくゝといゝ　蛍　李吟

あゝ法ゝのゝれ　附ゝ　湖春

[illegible]　宗因
[illegible]　素堂
[illegible]　梅盛

蔵王

山[illegible]　東頼
[illegible]　西鶴
[illegible]　休甫
[illegible]　任口
[illegible]　徳元
[illegible]　一三

[illegible]　望一
[illegible]　空存
[illegible]　幽山
[illegible]　不角
[illegible]　奥州
[illegible]　尚白
[illegible]　元順
[illegible]　言水
[illegible]　團水
[illegible]　來山

十六夜もまつ見て残の郭うち　芭蕉
又月や猶も清きこと暗のる　其角
秋の思火焼ふるく教ひ名ん　亀翁
蒲萄喰て寿ぐ海ひろ山　嵐雪
富人ふとあさ出くくとり喰　禪兆
来年ハ〳〵とくくもよりの雪　露川
名月や茶の蕎麦のある内数　路通
両の口や門ふけて蒸る花　信徳
猪鹿もいろくくに彩合　李白
折ふ後茅ふ蕎あり頃の柳　治徳

名月や隠者の門ふ魚の猪　孤屋
寺住の家〳〵て山ん為枝尼　智月
ふと姨と酒ふて〳〵ん月　東順
酒の名まふ〳〵巣月為　去来
のうまてもせふ紙ふ　立吟
猪ぬまてふ〳〵ひふ　秋風
いろ〳〵の蔓一いろ枯ふ雪　柳水
ぬま〳〵灯を切蕾ふ八気ま　木因
八稿の寺や寺の芋ふけ　年素
契月通ふ

[illegible]　鬼貫
[illegible]　秋色　女
[illegible]　梅舌　女
[illegible]　荷兮
[illegible]　越人
[illegible]　嵐蘭
[illegible]　乙由
[illegible]　雅澄
[illegible]　落梧
[illegible]　明水

[illegible]　恕問　女
[illegible]　美津　女
[illegible]　武門　冠里
[illegible]　之道
[illegible]　加橋
[illegible]　小春
[illegible]　千代　女
[illegible]　加生
[illegible]　一井

[illegible]
[illegible]　歌麻呂
[illegible]　一井

いさぎよう葉を菓子の内　女　そて

一いろも動かぬ秋の雲　野水

禅寺の松の義や神無月　九兆

きさらゝ身ハ冷の絹袋　神官　風水

いまてう雲にまつて鳴る音　僧　千那

かゝる屋のふるんやあの孫　暮年

紀ゝのくらこゝかまつこと　仙化

ぢくうなく大三十日の森酒ゝ　蚊足

四月朔日高麻寺にまつて

を花ゝぢくゝ

夜ゝへゝ月ゝ踐らぬ羅ゝゝ　女　その

ぢくゝあゝるゝ仏の畑や麦畠　游力

牛涼みゝ書ハ出ぬあ津叩　淵瀬

五月六日大坂討死の遠忌を弔ふ

大坂やゝぬゝの草の五十年　武門　蟬吟

日の丘やこゝまて暑き年の去　正秀

かゝゝゝぬけ初る蓮や秋の風　杉風

白桃や雫も涼き水の月　挑隣

まゝゝや花くつるゝゝゝゝ年　支考

簾あゝる猪ハ出ゝゝゝ杜丹ゝ　風弦

深〳〵さく磐を出ての縄手道　重翠
高の山もまた〳〵あきるわつれる　少人　幸和
掘けて井を深〳〵堀る弘　洒堂
男ちさと蕨さめハてこい野桜弘　遊井　花崎
湯屋のあつ〳〵有東民初　掘　武門　露沾
更りや水田のよをあまの川　維然
めけつ〳〵ふる〳〵ふる　秋の日ぐれ　史艸

英徳園の茗礼ことうるはしく

已月為よりこゝろて来こまみのつれ　近衛　信尋公
茗神乎之遠も咨〳〵あめ　ふるさとる　史邦

温泉後あること表裏も駆ふ寸　沾圃
沖ふるこ松の月ハ〳〵かなと　仙鶴
ふるのよハそもも〳〵ふ異さとる　桑原之信
大名の蔡ふるも孫ふこまこふる　許六
いと折ふく人沖ふせん山さふ絶　雪柴
く沾ふく元天ものトとくこ　卜天
也松ふ新の春て来ふ古業ふる　野坡
陣ふ納月の〳〵ふれふ寸柳ふる　素龍
茗松ふふけて所の暑さ弘　臥高
形整を志いてふふふふふふ　探芝

春秋八仙　きうりてもなうけう　北枝
詩きく　きこえ　ハ　ぬ　ぬ　ぬ　賀子
人の　ものも　ハ　あそ　ハぬ　ぬ　ぬ　立志
物の　ものも　氣の　むき　の　ひ　ひ　重德
ひの　ものも　なり　なり　の　ひ　ひ　丹野
胡の　ものも　ひと　ものも　ひ　ひ　ひ　吾仲
除ち　門　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　鷺助
生く　者る　人　て　秋の　氣　き　鋤立
山　つ　こと　きて　て　果　き　常牧

宮崎晋門横ヨ

ものも　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　角々
秋雪　今　夜　夜　夜　ぬ　ぬ　ぬ　岩翁
孫　孫　孫　宮　孫　孫　孫　孫　揚水
雪の　夜　布　ものも　ハ　ものも　千川
夜詩の　ものも　ハ　ものも　ものも　ものも　汀鵜
茅　月　夜　ものも　ものも　ものも　重之
いつ　ものも　氣　ものも　ものも　ものも　孚先
氣　氣　あ　ものも　ものも　ものも　松青
人の　足　濤　ものも　ものも　ものも　肅山
ものも　ものも　ものも　ものも　ものも　ものも　今水

なりてもの物もかなしけれ　昌席
大ちらしの雪の人くるる後さう　三箇
九三十日静なめるく数菓の日　松風

人のこを失ひしこと

哀きこと経ぬるもいまだ忘れて　方山
思ひ出るこのなつかしき所うる　才磨

辞世

無事にていやすかはしの家　晩山
時そ生も死も龍うの雲ぬ　一笑
もうこの瓶ハこけうの山さく　心圭

待人やあすの今ハあるこの事　程々庵
亭この数こ来て待て有こ事　徳老石仙
この日や行こ来ん明ちの春　忠知
学や教こ於て数あ川　鉄杖
陽こや降るかけらこ金屏風　普船
まりて胡蝶こ来ぬ墨さうこ　蓬仙
鬼灯やうつくしこるこの口の丹　青楓
寺洲分くるこ秋の夕アぶ　僧 択下
待若やこの竹　復原新こ　子堂
こ待堂に絶まこ義の盛うこ　春登

雲鳥の後て飛てこそ雲の水　祇空
四の人、結てかへるる拾遺水　大主
白雲や見るまこと雲の宿　僧目能
花をのぬいをぬる新て中人あつめ　任口
雲の梅や探くあるく旅庵　渭北
けくの花枝うく也を使うる　秋竹
茅屋佐の梅ぬる紙ぬるを吸家　女人桃後
無坂乃蘿力あるる素花う声　老鼠
今朝出くるるいつらへるるひ　羅人
俺くさ花をかけるる火焚うる　うく梅先

明あるる新雲をもさるるるる月　百人化老和
地吹八蟬の磨かるる柳うる　琴風
朝夕コるるるるるる蹄うる　女ろん
新くを蕎ふもるるの遥新る　望鳥
るくるもるるるるる火蘿る　工谷
離の月やるるるも氣毋のるるる　浮萍
白晝下初るめるくく新石　紹二
ほるくを寺あのるくやの消沢牙　拈蓬
をはるるのるコるるる枝丹うる　天艸
たくをつけて人を森をを新る　玖也

麻引にその麻むらもなくなりき　木因

よの色をつけて折らん花の菊　女 そめ

かゝる木になりて年ふる稲々は　一晶

七草を書そへて添るなり　俊似

蛍の声に従ふ所中かな　市抒

最上川ちかく

稲妻に体をかはして飛あかれ　曽良

涼しさは人にかさらぬ夕かな　玉嘯

鶯鳴て後へのらん竹のやぶ　如泉

佛より神ぞ尊き今朝の春　女 しらめ

梅折てあふるゝ一寸望中かな　一髪

立向に若草つまる明かな　丈人 亀助

鶯は入れさらぬ嬉しさ　鼠彈

作りかけし竹をたきて色うけ
うきもりへき折て思ひ出て

名月や庵にも見えも落歌　熊女 従然

涼しさは日毎つくりも見ぬなり　卜枝

秋もまたおれし若人の桃の沼　傘下

梅咲や花は庭にて見ん降る歳　淡々

明日は花今のうちの月の影　西武

白雲を書きこむる梅の花　竹亭

霞より咲くあさ花流うけるね　我黒

金の玉のたちくの貢　和及
須磨あの浦さの景を詠め引　一鈔
編笠と能を　ひらく　敬、懸　男　魯町
みくこうし　数さく　鍵さく　敷の音　撞堂
能ものく　笑こさく　やふさろろ子　流水
を分の門　お自ろさ　柳ーうを　風國
移くハまて　乃さる　庵の高弘　不障
くさくと　出れく　仕号ム　拄丹うを　茶以
孫嬢をうきて
扇を出ふ　離宮てるれちさくの孔　猿雖

上童　けりも　稼のほとさゆう　西吟
かくまてもかさる　法あやて　丁かうう　鷺水
いろくの名もむつくや　寺の　鍋　珍磧
風吹ゑ日ハ　ふなくの　柳うち　投遊
日人くさ　術　嘲　弱ん　女房　遊　好春
編くう　行ようう　らん　蓑こ　後も　舎棘
早乙女や　法ふの　方へ　植さく　引　來拾
松　猿ム　猿　細さる　田　植うる　千皐
夕立やさもなく　人の　猿　まく　専吟
山　姥ういくぬ　山やさくの　ろ　由平

姐といひし鬼ともいひし合の花　大森彦七の面貌　旧室

己身面や　サヨ彦の桜の山　三子冨

抱義やひらせ　ふうの井寿　希因

ふたゝびあらぬや　余丘の通夢　武門　冨虎

消炭や捷味　ゆふ月方へよりて　猪の上　熟水

祇園会や行　ふうふ人の山　保友

ふ里や張巾　ふうふ人もまし　観水

ふゝせよかしこまりこの扇　市川　栢莚

嫁取八幡の場より止宿して

帰けり家なる伏八度を萩の場　種玉斧　宗祇

附言

祖父八自笑　父八其笑　兄を瑞笑と呼ふ

後年白露とあらためむ業のいとまを

謝徴をもつて謝論の一ちを編輯

なり病床より即しぬ　あるを其義の

旬を感して

病む一人の若ものをつくりてあるつる

かく一句を吐て三十三めぐりの風月の

九日の世をまぬかれ迷福のいとまを

もとめんとおのれ八えよう謝句を

なるまゝにはるかなるあもはなくなりぬるかの乃
小集を梓上の母〳〵具〳〵此年春雪の高
まさる知己法君るの句を筆〳〵あつめて浸々
孫〳〵いさゝか俤者のまゝひるもなれるを
新のおらをもはけきつゝぬ

皆意改十年戊午春

文雪自笑

附録

春

ふのゝこゝろまゝくゝ元の春まゝ江戸 心祇
春もや、礼者和〳〵如うな 同 春来
うゝや春上なれく三日の朔春弘 京 定雅
耶郷のまくらもつとる宮 紀 危言
島まく〳〵ゆうく揚春の菓弘 武門 天府
四月も後のこゝろこゝさう南 江戸 成美
梅うゝ上朔日の這入こ鼻の穴 京 分川
梅鳥カア海老花日を異ゝ 同 紹朴
梅春の偶をかゝゝ 僧 山外

梅うゑの春暮るゝ花ゝ　尾張　岱青

き柳や二筋三筋老まよる　江戸　柳居

むつゝや柳ゝ門の縄簾　僧　只丸

いつまでも娘まゝ子の柳うゑ　中村　慶子

白浪ゝまゝ明の鶯の言解ぬ　　園更

雪情や浪ゝ日の出寺二の鶯　京　呑獅

居まゝゝゝや西方をゝる小田の厂　大阪　升六

此頃の花よりあり往来う雀　尾張　彪門

連よりあゝゝ智ゝ嵐ふゝく　江戸　亀文

いの寺の春よりあゝゝの花ゝ　京　俵雨

川ぶちやゝを自えの山さくら　苏盲人　祇峯

花ゝきや盗人の名も加ゝ寺　備前　松後

（卜居吟）

徧も花ゝもふ蕨る位蕨ゝな　　白鵠

蕨きハゝゝゝゝもれ花の雪　盲人　一種

花賣の花ゝつゝ紀蕨り苏　京　呂波

桜ゝさて廓あゝゝの菓稀ゝ　京島原遊女　大橋

海棠のおこゝれゝ蕨る矣彩　沢村　其答

菜の花や候海を張りの東山　京　竿秋

上京よりゝゝぬゝあゝ桃月　同　管鳥

ゝの花乃小判の四十二日月　江戸　卯雲

暁のうちちらしてさくの卅　備後　若翁
おちられしく葉ちるの霄よ蓋の卅　京歌妓　そて
遠くやひよつつまし二つつまし　大阪　麥光
蓋代の遥よ岸のかしらの浦　京　蒼虬
撫穂ちらくさくはを折ぬ人ちる　江戸　素外
あしたのやちふまくちるの蓋辺ちる　月居
明ちるあよ立ちちちを吸ふ丁　尾張　亞満
元山や行よ山ちれて雄ふの声　京　蕪村
雄ちの羽のちるきやちけちる鶏鳴ふ　尾張　萬岱
風ちる思蓋のあや猫の色　江戸　樓川

勤よ花あれそぬる故蝶　春郊
こちれ来しく紅ちちる桃のとま　一音
草の鋏穂　繕ひぬ義京　大阪　如圭
出代りや似ち雑ちちちちる　江戸　完来
蓋面の晴ちれ漁火の光りち　尾張　沙漠
ちる出て夫ちよちる蓋ちる　江戸　白雲
蛇の退隠ちちへしもせぬ袴ちる　京　杜口
花ちちちる羽ちちちやちの蓋　江戸　未得
文蓋を惜しむ三十日とあちる　江戸　不言
蛇わや二蓋の蓋代ちとれ卅　江戸　蘭尼

初鮒や国生屋敷の[illegible]　大阪　左逸

遠樹日ぬくのかすみ　尾張　昆明

清雪や藤棚ゆかしい　備前　秀美

夏

是ハ〳〵這つゝ[illegible]　江戸　宗瑞

先狂〳〵あちこちもあれ初袷　大阪　舎鳳

清〻しき寺や[illegible]入り　調和

清〻しき寺や自刎の清水　治涼

[illegible]　大阪　大魯

日中[illegible]先清〻しの初[illegible]　江戸　菜陽

一粒も惜しの[illegible]　僧　一嶋

[illegible]　文腸

古塚を[illegible]　安士

あ[illegible]の清の[illegible]　大阪　下物

抓む附[illegible]　江戸　青峨

[illegible]　尾張　臥英

[illegible]　捨石

[illegible]　江戸　百里

[illegible]　大阪　銀獅

[illegible]　胡友

[illegible]　助叟
[illegible]（閑悠）[illegible]　京島原　太祇
[illegible]　江戸　肯原
[illegible]　江戸　蓼太
[illegible]　同　葵足
[illegible]　京　佟古
[illegible]　尾張　岳輅
[illegible]　日　珉上
[illegible]　卜人
[illegible]　江戸　宋阿

[illegible]　美濃　五筑
[illegible]　伏見　鶴英
[illegible]　大阪　晩鈴
[illegible]　江戸　湖十
[illegible]　伊勢　兎士
[illegible]　江戸　買明
[illegible]　京　道立
[illegible]　伊勢　如真
[illegible]　樓川妻　田女

蚤起やうるさくまとはるる　吳龍
見わたしの絣よほのぼのと八日うま　京　竹洞
羅ふるる女めてくる土用干　大阪　布門
行くなくや秋の雨の雫　露水
六月ハ悩まれるよ術後川　江戸　竹護
川とよるくる術後川　京　鳥西

秋

分胡秋とまくて門掃男うな　江戸　存義
あるさうる金の蔓也くさの秋　京　斗文
志ゑんやうに雨男武蔵の夢あり　大阪　拾宜
魂抱やめしたうる佛あり　江戸　平砌
言灯籠塵切記おそうる　同　貞佐
折ふハ高いく男灯籠うな　結城　雁宕
大文言よ月一点の光りうな　京　五雲
仇人とあ拍子の金ふ踊りか　同　百池
猪ともおくるくる記うる角カか　嵯峨　雅因

胡蝶よとめぬうの濡る頃　大阪　人左

[illegible]　江戸　亀成

白露のあふ〳〵出るとゝ[illegible]　京　儿圭

[illegible]の乃[illegible]ちらゝ[illegible]　大阪　万翁

谷陰よ菊の人や菊の花　京　田福

白[illegible]くわ[illegible]ばゝてもまゝ[illegible]　月　南川

花ハ綿弐ヨ賞ゼられ
実ハ清弐よいやめくき

[illegible]　大阪　二柳

[illegible]　涼帝

桑乃穂の動けハ[illegible]小家ゆ　江戸　午心

田海波ちつゝよ稲の実入うま　寛之

[illegible]ゝと世秋のゝゝハ思ひ　京　嘯山

秋の蝶松ゝ山ゝ日を[illegible]ゝ　大阪　友國

虫鳴や明神[illegible]の糸　月　甘三

遠ゝや蛙鈴法いり法い[illegible]る　秋之坊

名月や秋ゝゝ[illegible]一[illegible]ゆ　江戸二毋　治山

嵐ふく仲の中ゝゝの月　伊勢　樗良

名月や誰ゝ[illegible]ゝ[illegible]の声　江戸尼　古友

石山や[illegible]ぬ先ゝ秋の月　京　月溪

多病素年酒量比往日十僅二三

己矣市よりの夕の外あらは　武門　龍眠
秋ぞゝや定まる世よ定まるる　京　山陀
物の気色知れハ秋の森えうち　尾張　羅城
一森ゑ二森ゑしても鳴うる　鶴郎
大蓼の咲くと霜れ雲ゆ　江戸　春堂
唯よさへ淋しゝ物を拾尾花　宗湖
一条ゑ五条の連や牛車　京　維駒
そよあらあもを拾う秋の雨　負山
赤菓や　移竹を伸て　拾ふやひんをうる　京　雨遠
鼻毛ぬ咲く秋を感む淋うる　鳴雄

十五夜よ出しゝ月ふも十三夜　江戸　百菴
門口ふ人新さゝしぬ秋の雲　青蘿
白の雲ぬ日ハ雲ふれも秋の雲　尾張　士朗
咲ちゝ折ぬ蕎の揃う南　渭北
加茂川の雲一筋よりや秋　江戸　津富
夕雲も咲ゝ九月三十日ゆ　同　雞口

冬

万自鳥ちの附

万葉よりうれしくうれの仮名まこと　大阪　宗普

ほれも咲の枯枝となる附句うな　和州　守貞

ちらくと花も咲たいの花ちらす　一通

初雪や袖を来ぬ人よ多　江戸　超波

千ハ折ふる雪ひろ花ちらす　京　儿董

花ちらしを折きハ雪の小笠ぶ　負柳

降き粉雪まつけの股ひたんまで　洛東　大雅堂

ちらくハあらう降の巨燵ふる　京　漆捅

降ふつよ数あるふるの日和ぶ　京　渡牛

まつぬまやむうよ降ふ花　尤簾

ちらくハふるのよまるる　大阪　む然

よハくと日の引雪く拾ぶ　加賀　麥水

なうくハ又は沈や河豚汁　白句

大根の月ちそ出まるくく汁　江戸　泰里

ふ雪ちくる実須ヒの二花ぶ　ハリマ　青角

雪もまくるもまくる年まる張花　可著

ちもやけよふちの了小仏蝶　大阪　駝岳

張ふ世界自笑ふ雪乃今もま　京　鉄僧

まちよちくる事ハやくふ歌　中村　鯉長

辞世

盥より盥にかへる寒さかな　山下 里虹

摺袴の似場を誰かぬくめ鳥　大阪 大江丸

みな古き譲の夢之暁の霜　京 蝶夢

ほろしと鼻息ふるや大根引　路升

病後の吟

干鮭をしふりて家皮骨かな　尾張 暁臺

大根とりに味方ありこそり　蓮之

瓢箪に酒ハ入ねと詩あれ記　轍士

さくらさく後も明日の鐘撞　鐘下

蝶として寺ハめてたき仏かな　不卜

扇にも人に年惜む顔ハなかりけり　公曳

誘ひ往けハ誘ひ来る色の風　江戸 宇呂

頬杖に来り年やおしまるく　負烏

やとハれて来てより除夜の春　大坂 芥柴

追加

春風に遠く沖乃帆かけ船　琉球人 □

読書女に暮ハかさねて郭に　朝鮮人 訥齋

十六夜ハ白髪一筋ぞ出さまし　同 莱山

相国寺維明禅師の扇に松に朝日のさし出たる画に賛をと乞はれて

松の枝に朝日を見出すことかす　呉郡 孟遯九

フルウチニ
Furi utsinie

フリタス
Furitasu

降る中よりうち出たる五月雨大坂玉東句之
紅毛人此句称賞し書て送りしとそ

ヨトヤキ
Yotoyaki

サツトキ
Satsoki

アメ
Ame

自然の理の如く
なれば此句自笑の
とりつて屋集
和字ちらすて
いとゝして
かゝひいとゝ
すを添ふ

唯けさよりけさよりなるを始めて
うつの春たちぬ
うてかしこのおもかけふ
寄るとしもきりてあるつもりと
かうつの

文化五戊辰年初春

京都書林　野田治兵衛
　　野田藤八　合
　　森九兵衛
大阪書肆　葛城長兵衛
　　安藤八左衛門　梓